

天草にも隠れ水俣病？

熊大研究 二婦人に疑い濃厚 班が診察

天草郡竜ヶ岳町立上天草病院で八日、熊大水俣病研究班の医師が、婦人を診察した結果、水俣病の疑いが濃いと診定され、天草にも「隠れ水俣病」を裏書きするカルテが示された。

さる四日上天草病院を中心に御所浦、竜ヶ岳三町の医師団が「水俣病上天草南岸調査医師団」を結成、手持ちのカルテを再点検して潜在水俣病患者の調査に乗り出し、二人の婦人患者を診察した。

この二人は竜ヶ岳町、A子さん（四十四）とB子さん（四十六）で、Aさんは四十四年十月から手足のしびれを訴え、昨年一月上天草病

院に入院療養を続け、同年七月十五日に退院して現在通院中。またBさんは昨年一月同じような病状を訴え同六月に入院、約二カ月

後に退院したが、Aさんと同様にまなこ通院している。
原田講師らは水俣病診断基準にそって運動神経、小脳テスト、知覚検査をした。
その結果、Aさんは運動失調、言語障害が著しく、また視野狭窄（さく）がみられるが、知覚障害はあまり目立たず、一方Bさんは言語障害は認められぬものの知覚障害、運動失調、視野狭窄という典型的な水俣病の症状がみられた。いずれにせよ二人とも血中に真性水俣病とは断定できないが、きわめてよく似た不全型水俣病の疑いが濃いと診定された。A

子さん、Bさんともタンパク液はほとんど魚というくらい魚が好んで常食していたという。
原田講師らは二人のカルテを持ち帰り、さらに精密検査するが「四十年以降水俣病は発生していない」という通念を白紙に戻し、二人のような不全型水俣病を認定することを考えてよい段階にきているのではないかと語っている。
なお地元医師団では来週中にも手持ちカルテの再点検を終えて本格的な潜在患者発見に乗り出すことにしている。